

移設可能な低コスト養液栽培 ～水稻育苗ハウスを有効に活用～

水稻育苗ハウスを利用して、水稻育苗＋野菜養液栽培を組み合わせた低コストで、環境に優しい栽培体系を確立します。

●軽量培地で、トロ箱等を利用するため移設可能

培地には地域資源であるもみ殻やもみ殻堆肥を利用して、軽量化を図ります。ベッドにはトロ箱や不織布ポット、水稻育苗箱を用いるため、移設可能になります。水稻育苗後に設置し、栽培終了後に片づけ、来春まで保管します。



図1 トマトのトロ箱栽培

●肥料の使用量や肥料成分の流失が低減

肥効調節型肥料（エコロングトータル等）を作物の必要な量だけ施用するため、施肥量を2～3割程度削減でき、肥料成分の流出も少なくなります。また、生育に応じて液肥を簡易混入機で施用します。



図2 果菜・葉菜兼用ベッドのキュウリ栽培

●果菜類・葉菜類等多品目に対応

水稻育苗箱と給水シートで葉菜類（ホウレンソウ、あすっこ葉等）も栽培可能。果菜類ではトマトやパプリカの他キュウリやメロンなど多くの品目に対応した施肥設計を確立します。

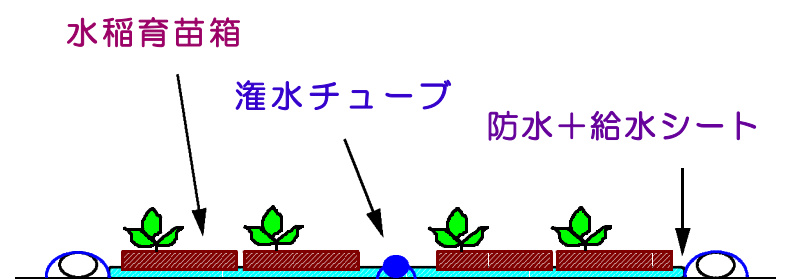


図3 水稻育苗箱を利用した葉菜類のベッド

栽培研究部 野菜グループ TEL 0853-22-6830

技術普及部 野菜技術普及グループ TEL 0853-22-6934